HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大雪山国立公園におけるインタープリテーションとリスクコミュニケーションに関する事例研究 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	FANG, Chongbo
Citation	北海道大学. 博士(環境科学) 甲第14730号
Issue Date	2021-12-24
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/84037
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	FANG_Chongbo_abstract.pdf (論文内容の要旨)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

博士（環境科学）　　氏 名 方 翀 博

学 位 論 文 題 名

大雪山国立公園におけるインタープリテーションとリスクコミュニケーションに関する事例研究
(A case study of interpretation and risk communication in Daisetsuzan National Park)

インタープリテーションとリスクマネジメントは，自然環境に対する人々の認識を高めとともに，人々への危険を回避することを目指すコミュニケーションベースの管理方法である。これらによって，人間活動が自然環境に与える負の影響をどのように軽減するか，人間活動において自然環境が持つ潜在的危険をどう軽減するか，といった人間と自然との調和を図ることができる。本研究では，典型的な自然環境の一つである国立公園に焦点を当て，インタープリテーションとリスクマネジメントの実践活動の効果を考察する。

第2章では，現場の参与観察，訪問者へのアンケート，管理者へのインタビューをもとに，インタープリテーション戦略の実践では，どのように訪問者の行動を誘導し，国立公園の目標である保全と安全の達成につながっているかを分析する。第3章では，自然環境におけるリスクに対する訪問者の認識を，訪問者へのインタビューとソーシャルメディア上の訪問者のコメントの分析を通じて考察し，その結果を実際に行っているリスクマネジメントの施策と比較することで，リスクマネジメントを強化する際の改善策を検討する。第2章では，旭岳で行われるインタープリテーション戦略の１つである「到着説明」について，合計20日間の参与観察，238部有効回答のアンケート，および2名の公園管理者へのインタビューから，国立公園の保全と安全に対する有効性を分析した。「到着説明」について，専攻文献から示唆されている3つの観点，（1）訪問者の参加率と参加保持時間，（2）訪問者の情報内容の記憶保持，（3）訪問者の情報の魅力と有用性に関する認識，に基づきアンケートを作成した。回答は，旭岳の到着説明に対する，訪問者参加率，参加保持時間と解説内容の記憶保持率が高かったことを示した。すなわち，到着説明は，大多数の訪問者に確実に公園の情報を伝えていた。到着説明で説明された内容についても，その魅力や実用性についても肯定的な意見が多く，特に散策・登山中の注意事項や当日の登山道状況と天気状況に関する情報は高く評価された。また，到着説明の実施者へのインタビューから，この到着説明が始まって以降，訪問者のマナーが向上したといったことが分かった。これらより，到着説明は，国立公園の保全と安全の管理目標に対して，有効であることが示された。到着説明の不足として，3分間の時間制限があるため情報内容の具体性が欠けていること，他のインタープリテーション戦略との連携が弱いこと，訪問者と両方向の交流が少ないこと，外国人訪問者向けに英語などによる到着説明がほぼ行われていないことが分かった。

第3章では，旭岳における訪問者が登山中に経験したリスクの要因とリスクに対する認識を，現

場で訪問者75組へのインタビューおよびウェブのコメント300件の中で述べられた登山中のリスク体験から理解し，それらに基づき，安全登山に関するリスクマネジメントの問題点と対策について考察した。インタビュー調査とコメント分析の結果はほぼ一致しており，旭岳の登山に関わる主なリスクは，登山道の標識問題，低温による危険性，天候の急変による危険性，および登山道路面の危険箇所であることが分かった。現状では，ウェブ情報が天候急変や低温など山岳環境の具体的な危険性を訪問者に伝えていないこと，登山道の標識の設置場所が不明確なことやその内容が不足していることにより登山道の難易度変化が訪問者に気づかれにくいこと，英語情報が不足していることにより外国人訪問者は装備の準備と登山計画に悩んでいることなど，具体的な問題点が明らかになった。

国立公園に限らず，どのような自然地域においても，人間と自然環境の相互理解を深めることが重要である。情報技術の発展に伴い，人々のコミュニケーション環境は一昔前に比べて大きく変化し，インターネットを経由する情報交換が主流となってきている。自然地域の管理側にとって，今後は，インターネット上のコミュニケーションにて，訪問者との相互理解を促進することが重要になってくる。第3章では，ソーチャルメディア上の潜在的リスクに関する情報がやりとりされている(リスクコミュニケーションのひとつ)ことを明らかにした。

本論文は，人間と自然環境の架け橋的な役割であるインタープリテーションとリスクマネジメントについて，実際の施策の効果と課題を明らかにした。到着説明のように，大多数の訪問者を巻き込み，確実に情報を伝えることができるインタープリテーション戦略は，自然環境の保全と人間活動の安全に有益である。リスクマネジメントに関して，訪問者の実体験から彼らが経験したリスクを理解すること，訪問者のリスクに対する認識と取る対策を明らかにすることが重要である。このように，管理者と訪問者の間の理解が深めることは，訪問者と自然環境の間の理解を促進することに影響している。本研究は，旭岳で行われているインタープリテーションとリスクマネジメントについて議論した。他の地域でも同様なことが行われているか，普及させていくために必要なことについては，今後の課題となる。